

外来患者の高カリウム極異常値速報の評価ならびに診療との連携強化

◎ 鈴木 久子¹⁾、新家 徹也²⁾、岡本 朋子²⁾、木下 真紀²⁾、下村 大樹²⁾、嶋田 昌司²⁾、上岡 樹生²⁾、畑中 徳子¹⁾
学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学¹⁾、公益財団法人 天理よろづ相談所病院²⁾

【目的】重度の高カリウム (K) 血症では不整脈から心停止の恐れがあり早期に処置する必要がある。天理よろづ相談所病院では、血清 K 6.0mmol/L 以上の患者に、極異常値速報をしている。診療との連携強化を目的に、極異常値報告への診療側の対応を調査した。

【対象】2020年4月から1年間で血清 K が極異常高値を呈した外来患者 160 件のうち同一症例、試験管内溶血を除く 131 例 (男女比=80:51、年齢 39-93 歳) を対象とした。

【方法】対象のカルテ記録から、①患者背景、②医師の対応と処置、③速報時の患者不在状況について調査した。

【結果】①患者背景：高 K 血症に対する対応・処置は、有りが 93 例、無しが 38 例であった。対応有りは慢性腎不全 77 例 (維持透析 8 例含む) 急性腎不全 12 例、慢性心不全 2 例、その他 2 例であった。対応無しは慢性腎不全 32 例 (維持透析 25 例含む)、ターミナル 5 例、その他 1 例であった。②対応と処置：緊急治療の実施は 93 例中 20 例で、GI 療法、血液透析、導尿が施行された。普通診療内での処置は 93 例中 75 例で、高 K 誘発薬剤の中止・減量、血清

K 抑制剤の追加・増量、食事指導、透析導入や腎瘻増設の検討が実施されていた。血清 K 値が 7.0mmol/L 以上または前回より 1.5mmol/L 以上上昇した 29 例のうち 14 例が緊急治療、残り 15 例が普通診療内での処置であった。症状確認や追加検査実施のみは 10 例であった。③速報時患者不在：8 例が速報時診療科に不在で、検査のみの来院または採血後帰宅指示の患者であった。うち 6 例は即時電話にて対応、残り 2 例は次回診察日 (2 日後と 5 日後) の対応となった。

【考察】維持透析患者においても 8 例に処置されており、報告の必要性はあった。また特に血清 K 値が 7.0mmol/L 以上または 1.5mmol/L 以上の上昇例は緊急性を要するため、迅速で確実な報告が求められる。速報時患者不在はいずれも検査後診察のない患者で、診療科への報告だけでは対応が遅れる可能性があった。

【まとめ】高カリウム極異常値報告での診療科との連携は良好であった。検査後診察のない患者情報の報告体制はさらなる強化が必要と思われる。 0743-63-7811